

宮津市の現状について



1 宮津市の概要



● 昭和29年6月に市制施行

旧宮津町と7か村（栗田村、吉津村、府中村、日置村、世屋村、養老村、日ヶ谷村）が合併し「宮津市」へ。昭和31年9月には由良村合併

● 面積 172.74km²

● 人口（H27国勢調査）

総人口 18,426人 7,738世帯
老齢人口 7,362人 (40.0%)
年少人口 1,870人 (10.1%)

● 市内全域が過疎地域指定

● 産業

【農林水産業】

水稻を主体として、花き、山の芋などの地域特産物
定置網漁業を中心とした沿岸漁業
近年では、新たな特産品として「オリーブ」や「乾燥なまこ」「ホンモロコ」などに取り組む。

【商工業】

ニッケル製造、メリヤス生地製造などの向上や海産物加工

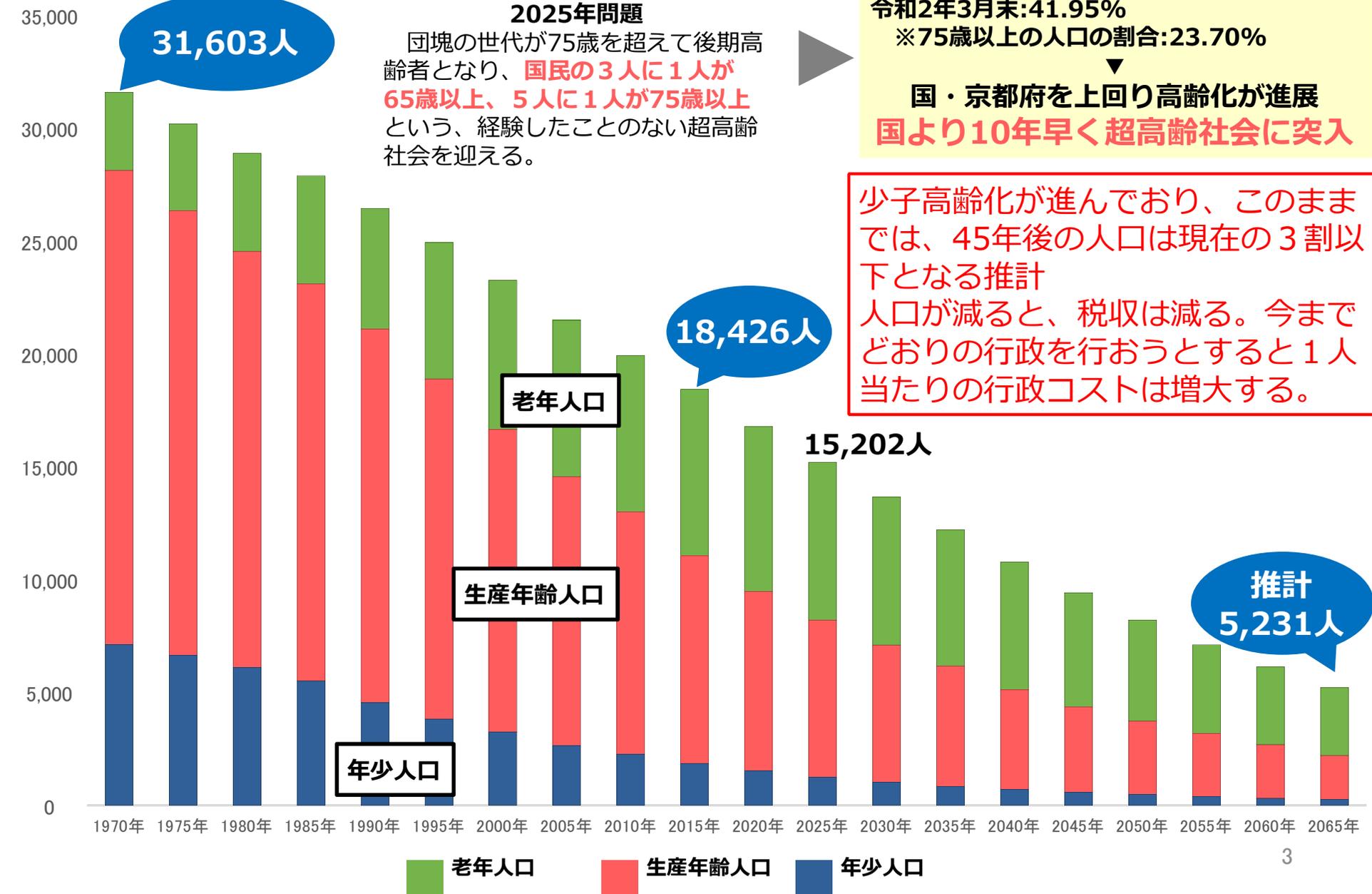
【観光】

北近畿の観光拠点として、年間約300万人の観光客が訪れる。
天橋立をはじめとした既存の観光資源に加え、北前船や細川忠興・ガラシャゆかりの城下町としての歴史を活かした滞在型観光への転換を進めている。

- ・観光入込客数 302.5万人（R元）
（H26：273万人）
- ・外国人観光客宿泊数 5.4万人（R元）
（H26：1.9万人）

2 人口動態

市政施行直後の昭和30年（1955年）は36,200人



2 人口動態

市街地から遠くなるほど、高齢化率が高くなっている。

地 区	人 口 (人)			内 訳								
				年少人口 (0歳~14歳)			生産年齢人口 (15歳~64歳)			高齢人口 (65歳以上)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
宮津	4,186	4,611	8,797	496	465	961	2,280	2,199	4,479	1,410	1,947	3,357 (38.2%)
上宮津	487	524	1,011	43	25	68	224	210	434	220	289	509 (50.3%)
栗田	849	939	1,788	75	73	148	442	388	830	332	478	810 (45.3%)
由良	464	536	1,000	32	19	51	221	196	417	211	321	532 (53.2%)
吉津	719	776	1,495	77	81	158	417	385	802	225	310	535 (35.8%)
府中	793	923	1,716	87	86	173	388	420	808	318	417	735 (42.8%)
日置	315	378	693	29	27	56	146	153	299	140	198	338 (48.8%)
世屋	51	50	101	5	2	7	21	16	37	25	32	57 (56.4%)
養老	412	418	830	25	29	54	205	161	366	182	228	410 (49.4%)
日ヶ谷	73	88	161	2	5	7	33	24	57	38	59	97 (60.2%)
合 計	8,349	9,243	17,592	871	812	1,683	4,377	4,152	8,529	3,101	4,279	7,380
割 合			9. 57%			48. 48%			41. 95%			

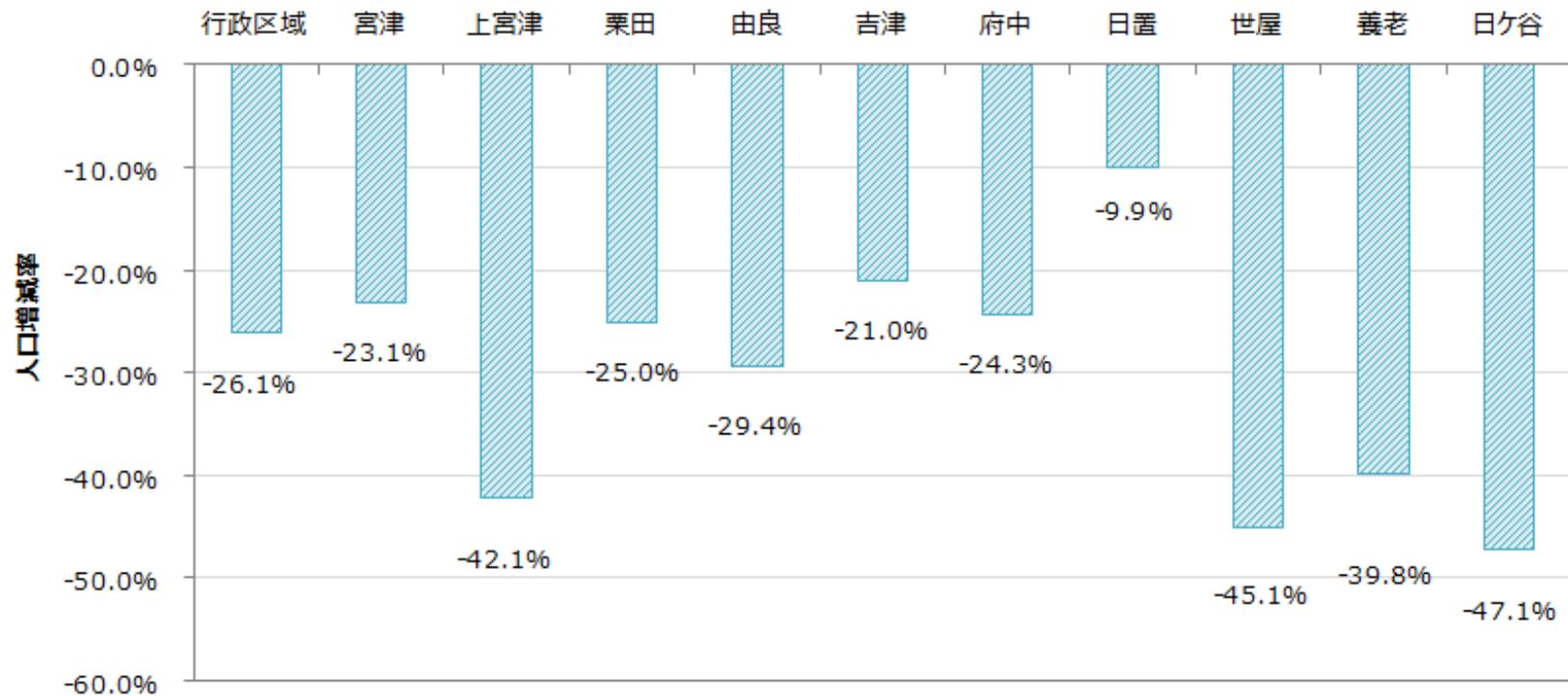
※令和2年3月末の住基人口

2 人口動態

地区別人口増減率(H7→H27)

特に上宮津地区、世屋地区、養老地区、日ヶ谷地区で減少幅が大きくなっている。

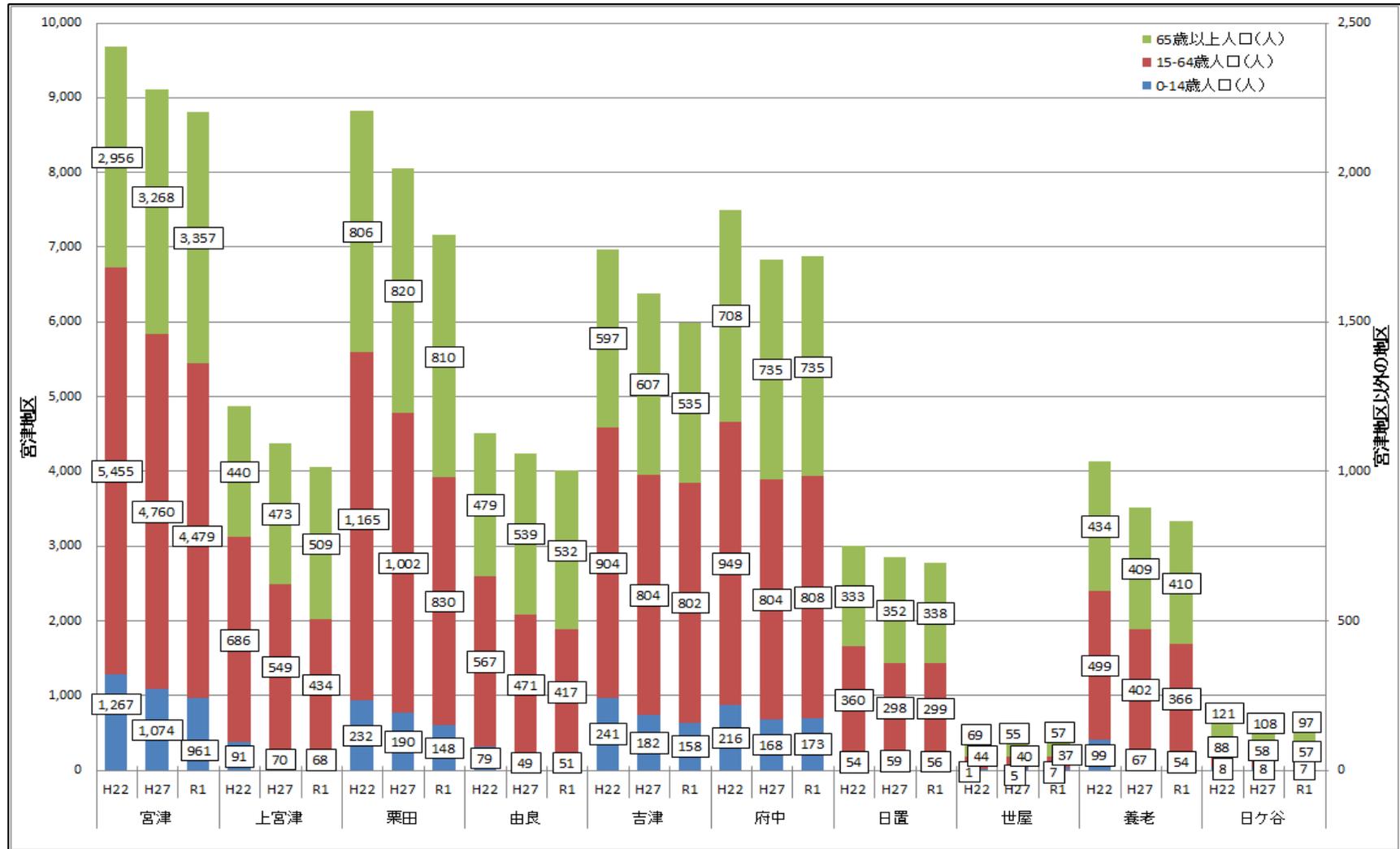
<地区別人口 平成7年から平成27年の増減率>



2 人口動態

地区別年齢3区分別人口の推移

ほとんどの地区で64歳以下の人口は減少している。
65歳以上の人口は増加しているか、減少している場合でも微減となっている。



2 人口動態

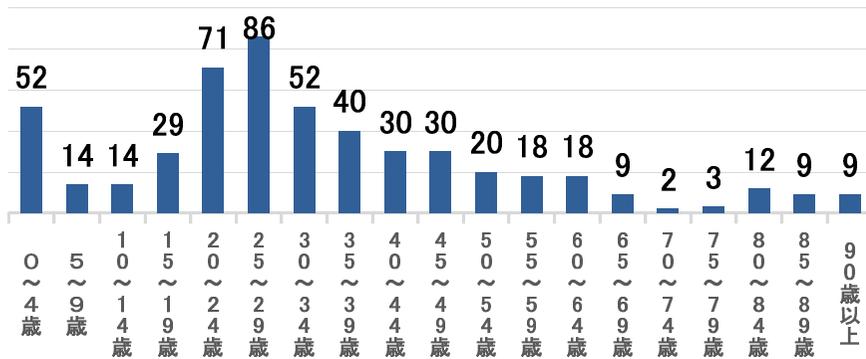
転入・転出については一貫して転出超過が続いている。
 H30年の転入者の約5割・転出者の約6割が15歳～39歳の若者層となっている。また、転入元・転出先としては京都府内が最も多く、府内では「京都市」「北部6市町」間での人口移動が多くなっている。

表2 転入・転出の状況

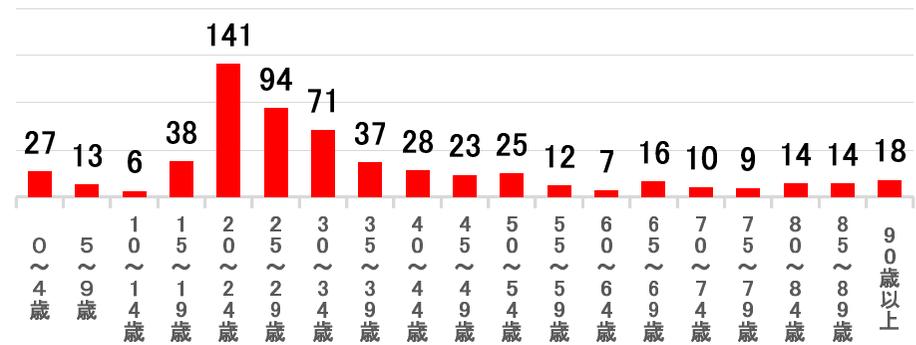
	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
転入数	474	514	499	528	501	491	518	
転出数	617	669	634	612	616	627	603	
差	-143	-155	-135	-84	-115	-136	-85	

出典：住民基本台帳人口移動報告

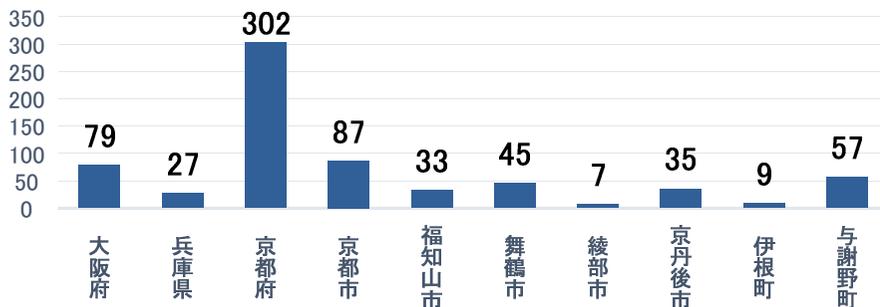
平成30年 宮津市への転入者(年齢別)



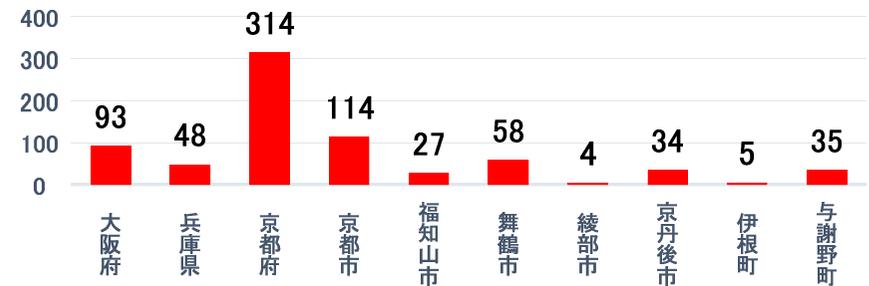
平成30年 宮津市からの転出者(年齢別)



平成30年宮津市への転入者(転入元)



平成30年宮津市からの転出者(転出先)



2 人口動態

北部6市町と宮津市の間では、転出超過の状況が続いていたが、H30年は転入超過となっている。

表3 近隣6市町との転入・転出の状況

	平成24年			平成25年			平成26年			平成27年			平成28年			平成29年			平成30年		
	転入	転出	差引																		
福知山市	25	35	-10	21	37	-16	24	58	-34	18	27	-9	15	24	-9	16	15	1	33	27	6
舞鶴市	29	50	-21	51	50	1	31	59	-28	60	56	4	28	52	-24	39	51	-12	45	58	-13
綾部市	5	7	-2	2	21	-19	8	14	-6	3	17	-14	7	11	-4	4	10	-6	7	4	3
京丹後市	32	28	4	24	33	-9	26	25	1	46	39	7	41	34	7	31	42	-11	35	34	1
伊根町	10	2	8	10	7	3	7	6	1	5	3	2	6	3	3	9	9	0	9	5	4
与謝野町	73	78	-5	62	80	-18	52	79	-27	64	70	-6	66	90	-24	75	52	23	57	35	22
(6市町計)	174	200	-26	170	228	-58	148	241	-93	196	212	-16	163	214	-51	174	179	-5	186	163	23

出典：住民基本台帳人口移動報告

平成30年 北部7市町間の転出状況

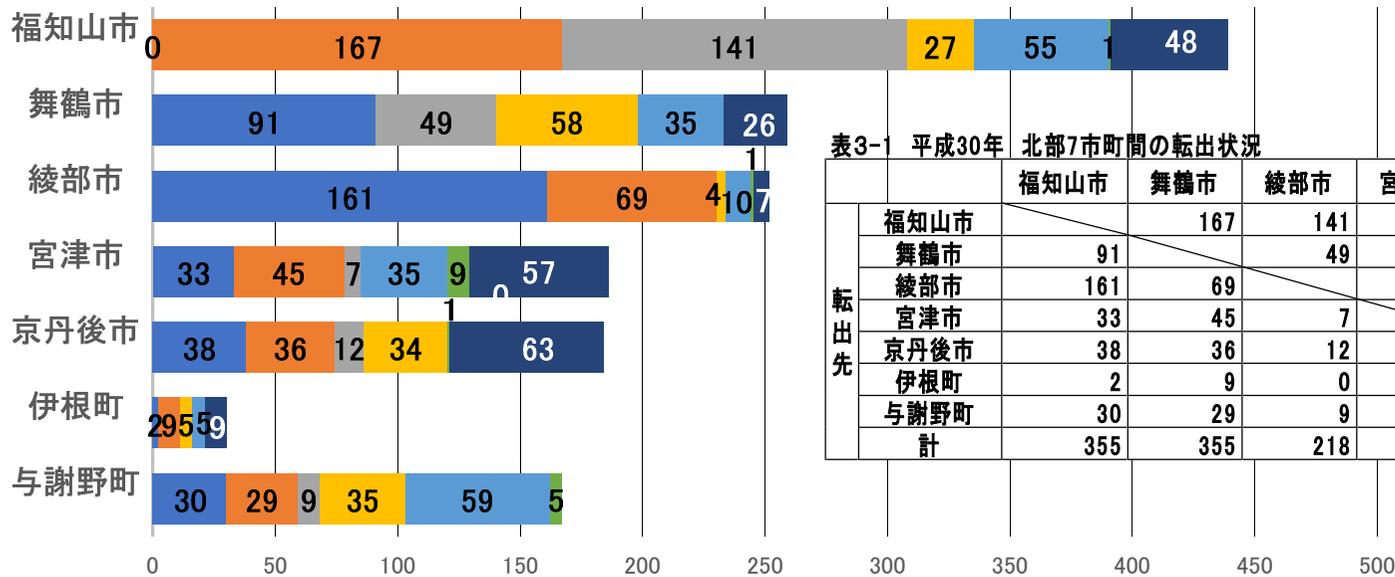
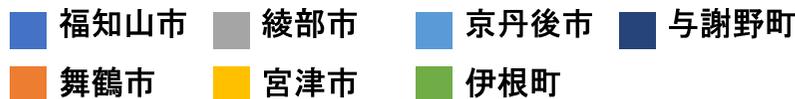


表3-1 平成30年 北部7市町間の転出状況

		福知山市	舞鶴市	綾部市	宮津市	京丹後市	伊根町	与謝野町	計
転出先	福知山市		167	141	27	55	1	48	439
	舞鶴市	91		49	58	35	0	26	259
	綾部市	161	69		4	10	1	7	252
	宮津市	33	45	7		35	9	57	186
	京丹後市	38	36	12	34		1	63	184
	伊根町	2	9	0	5	5		9	30
	与謝野町	30	29	9	35	59	5		167
	計	355	355	218	163	199	17	210	1,517

出典：住民基本台帳人口移動報告



2 人口動態

出生数は減少、死亡数は増加の一途をたどっており、自然動態による人口減少はH30年で270人と社会動態による減少を大きく上回っている。



表4 出生・死亡数の推移

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
出生数	117	106	108	98	84	83	92	
死亡数	297	326	335	338	346	363	362	
差	-180	-220	-227	-240	-262	-280	-270	

出典: 健康増進課・府保健福祉統計

表4-1 地区別出生数

地区名	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	計
宮津	70	66	67	54	41	54	51	403
上宮津	8	4	11	4	6	4	3	40
栗田	13	9	10	4	5	5	7	53
由良	3	2	1	4	2	1	3	16
吉津	9	10	6	11	16	7	12	71
府中	9	7	6	13	9	9	6	59
日置	3	4	4	3	2	2	6	24
世屋	0	0	2	2	0	0	-	4
養老	1	3	1	2	3	1	4	15
日ヶ谷	1	1	0	1	0	0	-	3
計	117	106	108	98	84	83	92	688

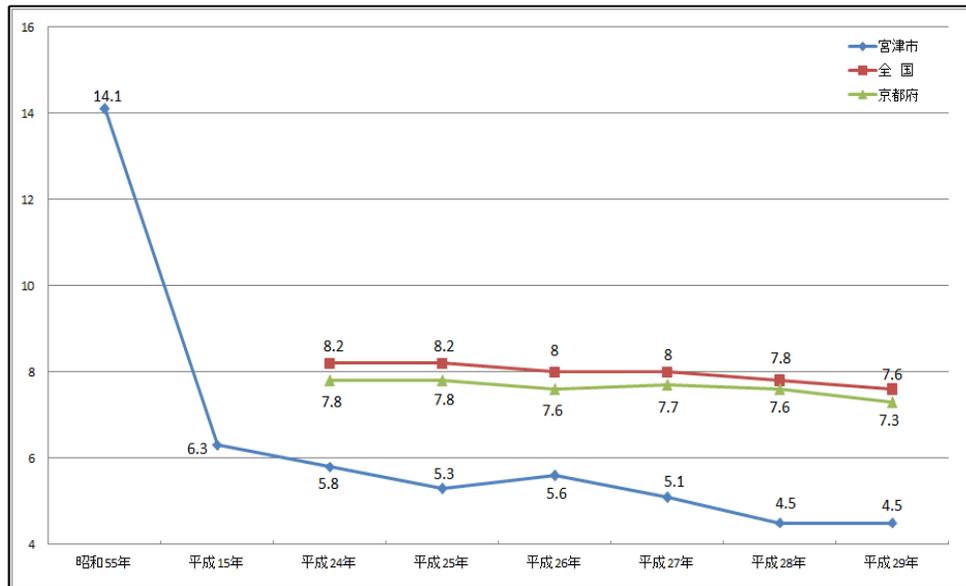
出典: 宮津市市政報告書

2 人口動態

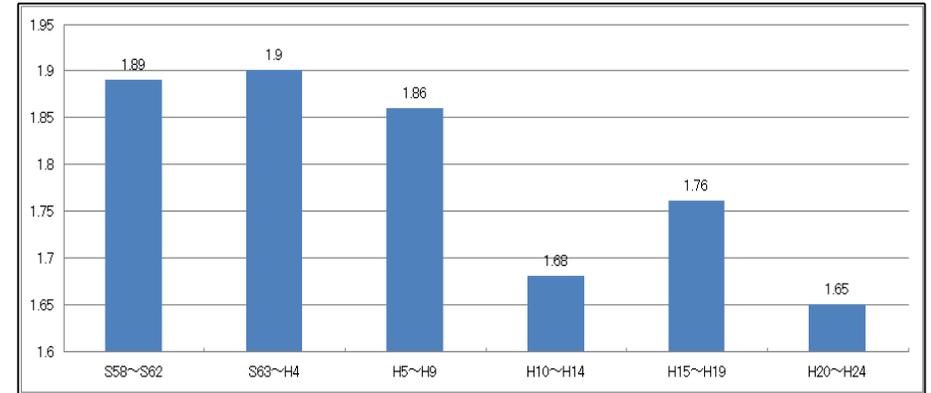
出生率の推移

合計特殊出生率は減少傾向にあるが、全国平均(H20~H24: 1.42)よりは高くなっている。しかし、人口千人あたりの出生数は、全国、京都府より低くなっている。これは、人口千人あたりの出産可能年齢の女性数が全国、京都府より少ないためと考えられる。

出生率の推移(人口千人あたりの出生数の推移)



合計特殊出生率(ベイズ推定値)の推移

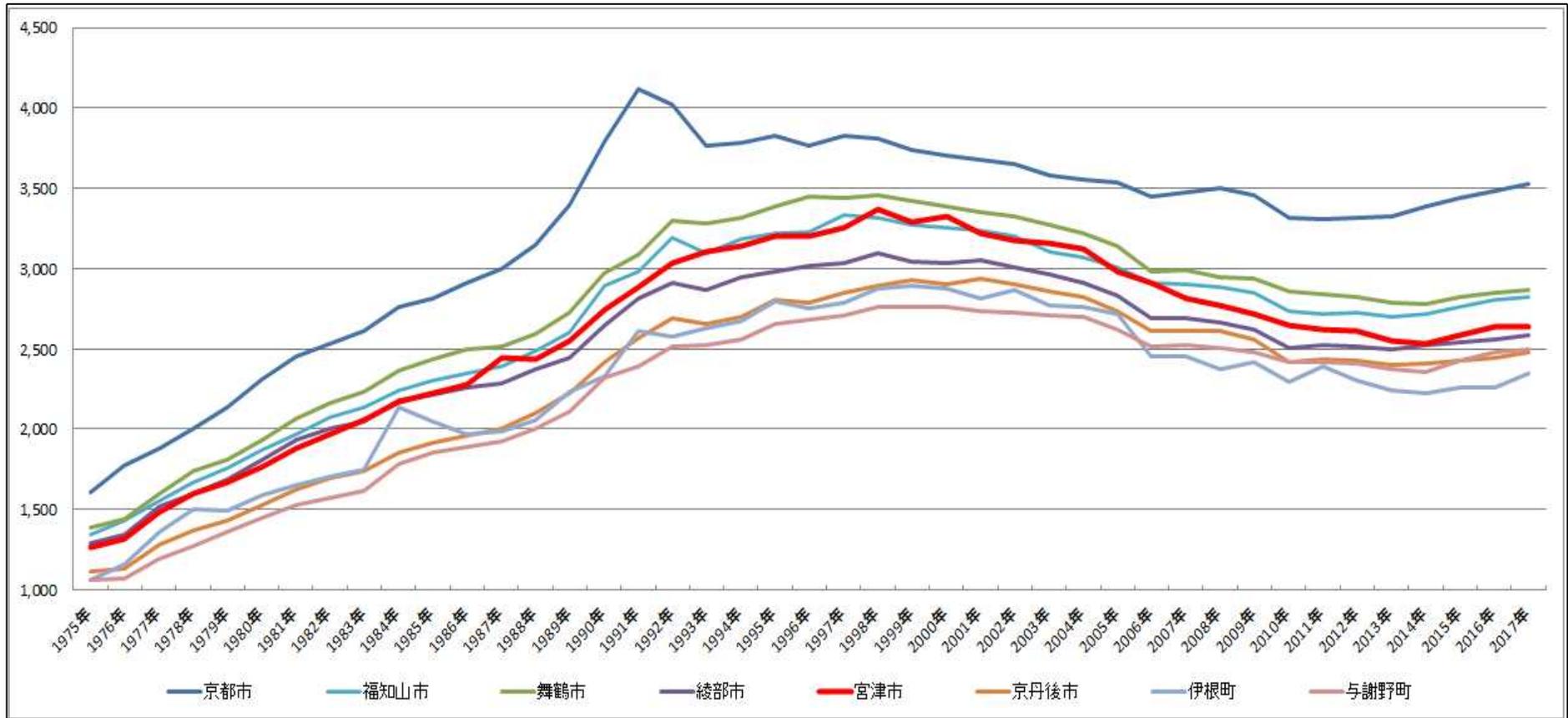


出典：宮津市市政報告書
全国・京都府平均は「人口動態統計」
※出生数は12月末現在の数値

3 市民所得

納税義務者数一人当たり課税対象所得(千円)

納税義務者一人当たり課税対象所得は、1998年(H10年)をピークに減少している。北部7市町では舞鶴市、福知山市に次ぐ所得となっているが、約20万円の差がある。京都市と比較すると80万円以上低く、都市部と比べて所得が低くなっている。



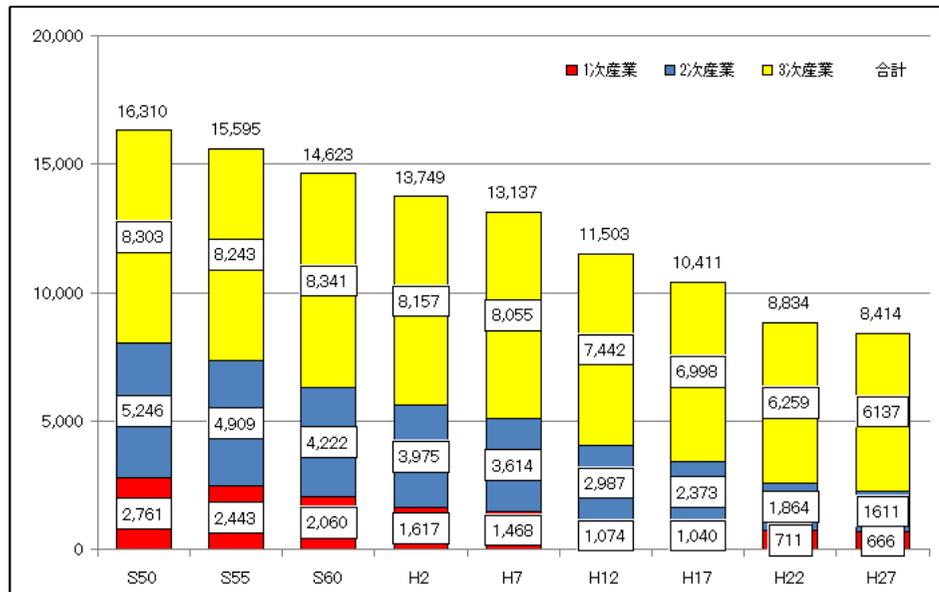
※課税対象所得（納税義務者数一人当たり）とは、課税対象所得を納税義務者数（所得割）で除して算出したもの。
出典：総務省『市町村税課税状況等の調（1975～2017年）』

4 宮津市の産業

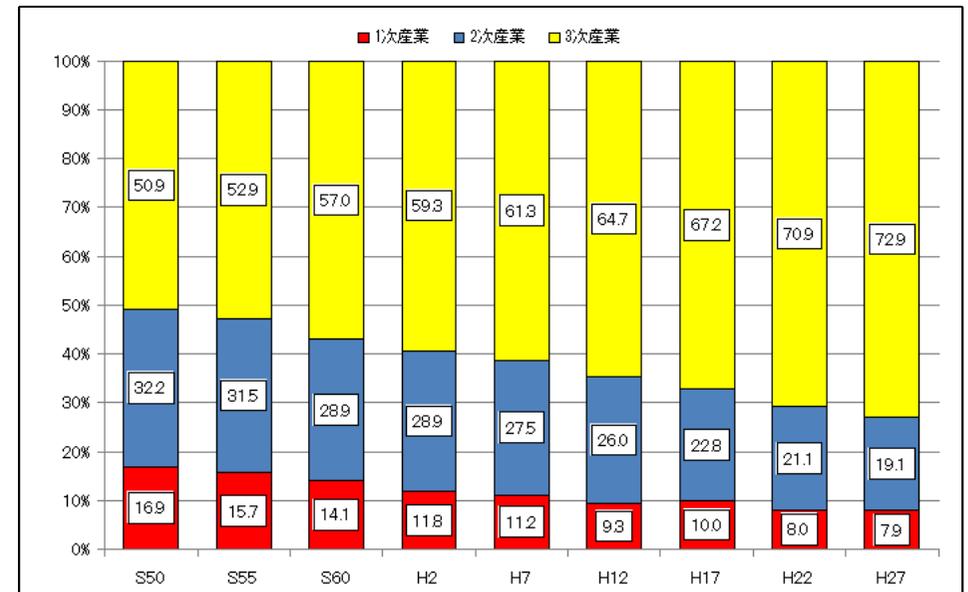
産業別就業者数の推移

全産業において就業者数は減少しているが、特に1次産業はS50年の24%、2次産業は31%と大きく減少している。
産業別就業者割合も1次産業、2次産業は減少し、直近では3次産業の就業者が7割強を占めている。

産業別就業者数の推移



産業別就業者割合の推移

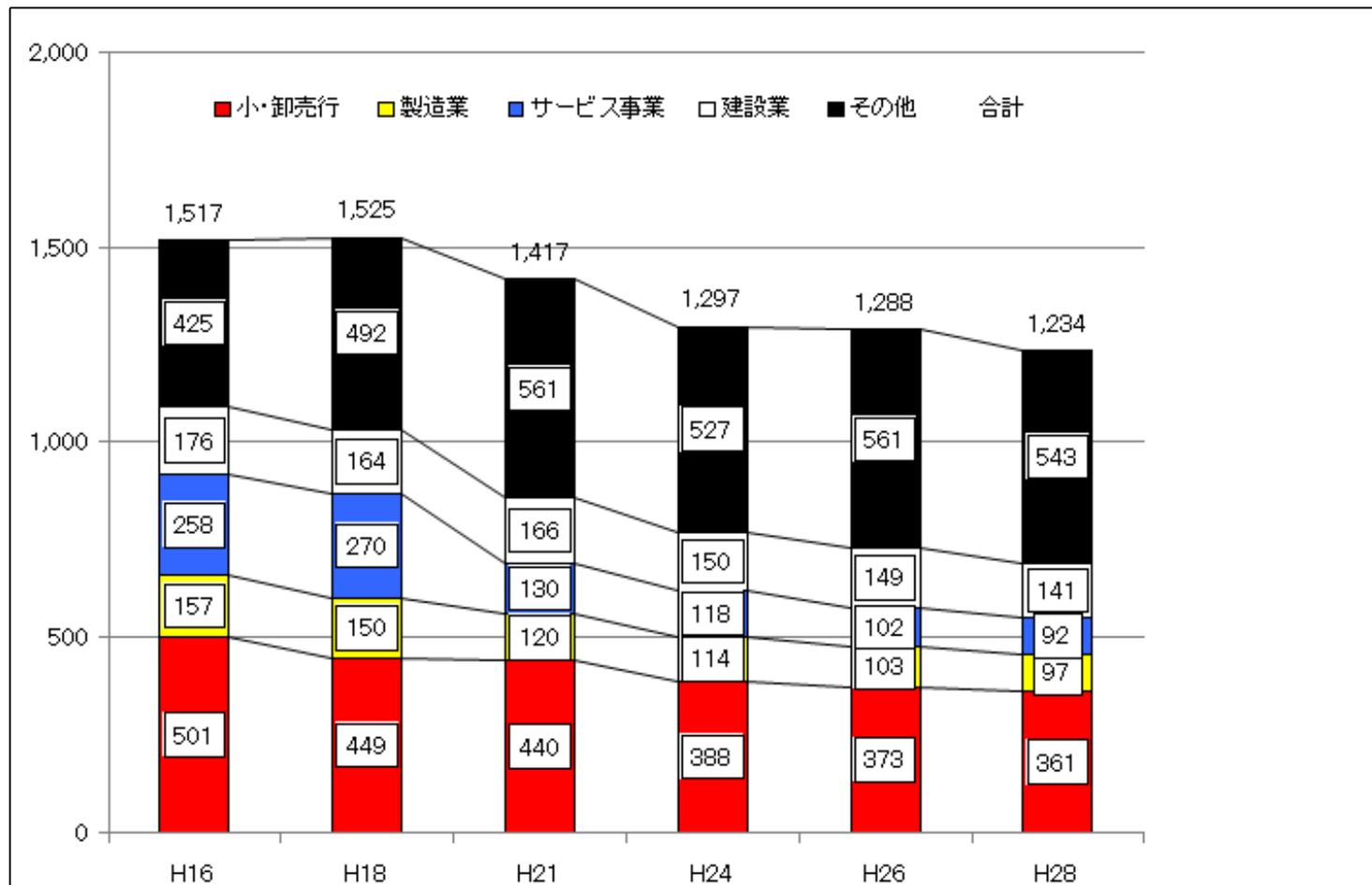


出典：国勢調査

4 宮津市の産業

事業所数の推移

事業所数も年々減少しているが、特にサービス事業(宿泊業、飲食サービス業、複合サービス業)が大きく減少している。



出典：H16,H18 事業所統計調査
H21,H26 経済センサス-基礎調査
H24,H28 経済センサス-活動調査

4 宮津市の産業

製造品出荷額等・事業所数・従業者数の推移

製造業についても、事業所数・従業者数は減少し続けている。
製造品出荷額についても、減少傾向となっている。

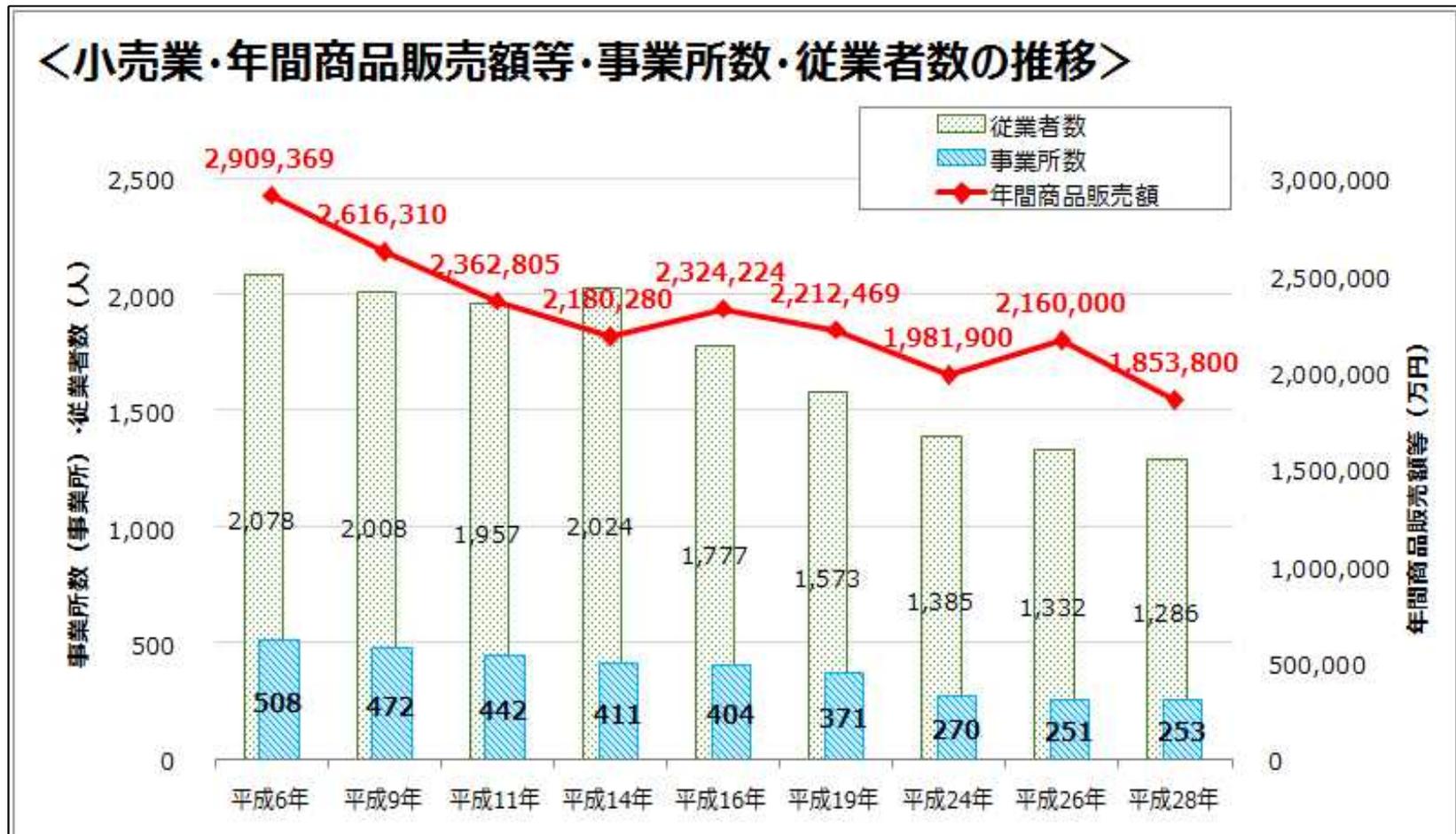


※従業者4人以上の事業所
出典：工業統計調査
各年12月31日現在

4 宮津市の産業

小売業・年間商品販売額等・事業所数・従業者数の推移

小売業についても、事業所数・従業者数は減少し続けている。
年間商品販売額についても、減少傾向となっている。

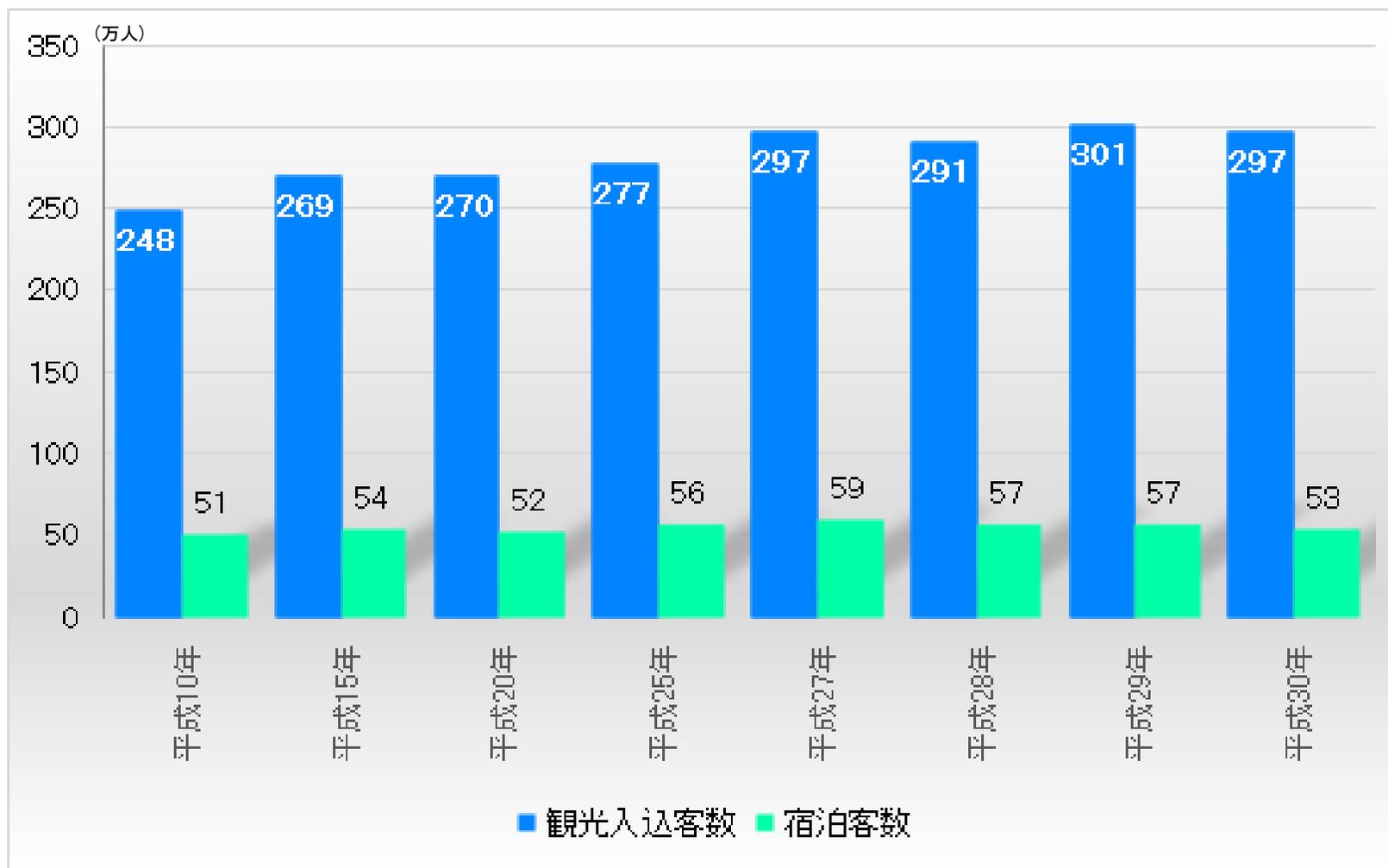


出典：商業統計調査 平成9・14・16・19年は6月1日、平成6・11・26年は7月1日現在
経済センサス-活動調査 平成24年は平成24年2月1日現在
経済センサス-活動調査 平成28年は平成28年6月1日現在

4 宮津市の産業

宮津市観光入込客数・宿泊客数の推移

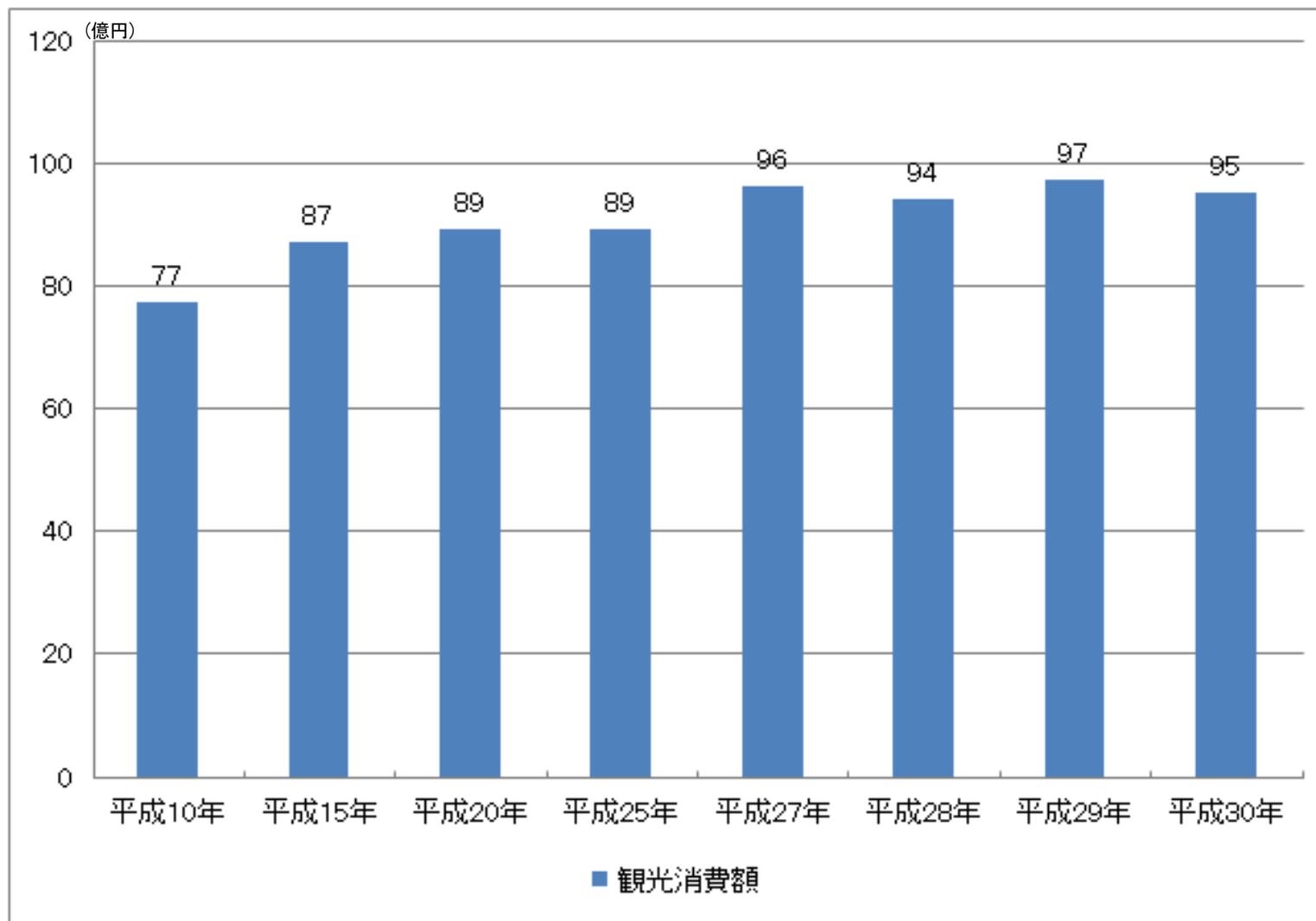
観光入込客数は、順調に増加している。
しかし、宿泊客数は横ばいとなっており、観光入込客に占める割合は減少傾向となっている。



4 宮津市の産業

宮津市観光消費額の推移

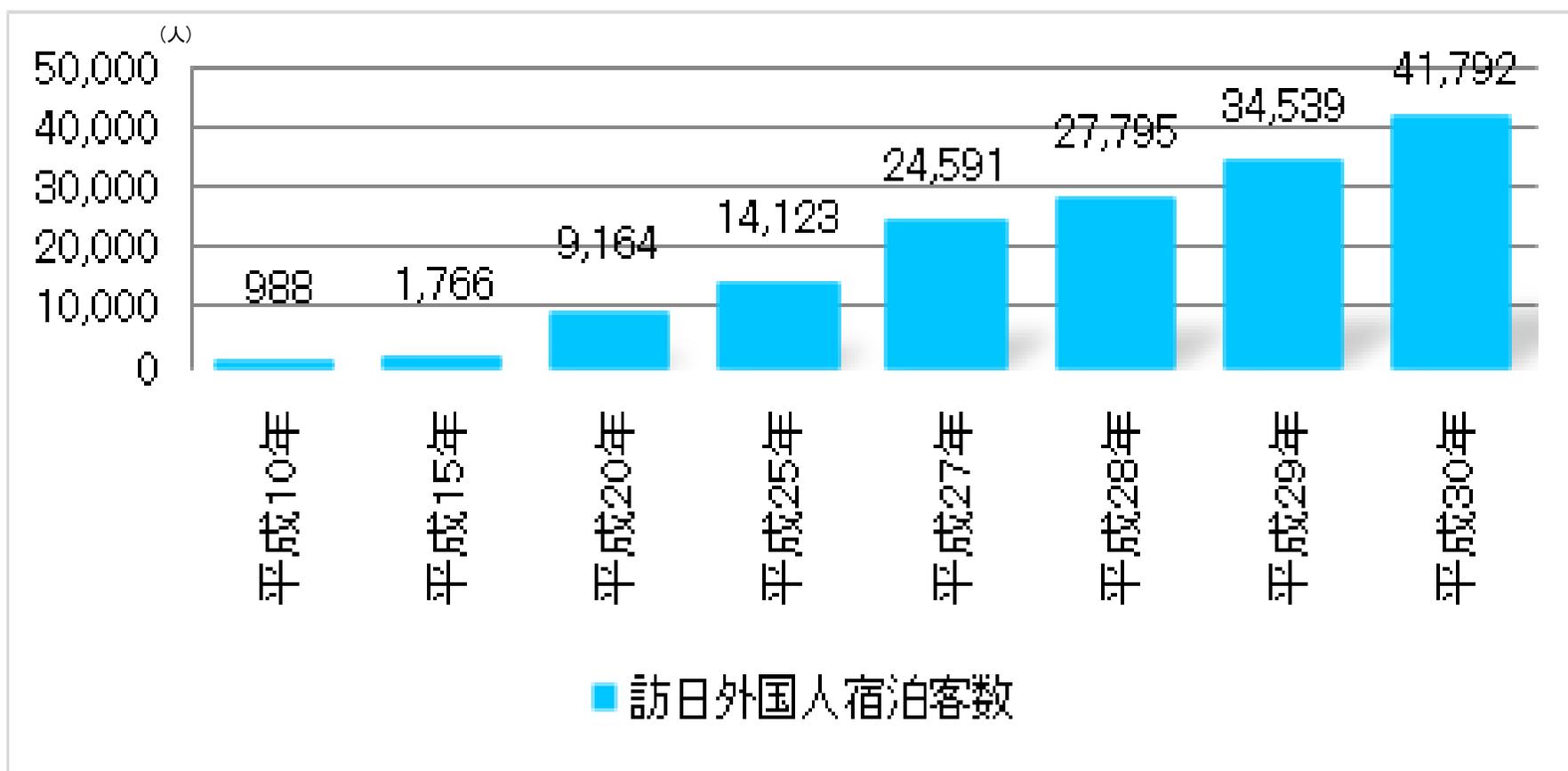
観光消費額は20年間で1.2倍に増加したが、近年は横ばいとなっている。



4 宮津市の産業

宮津市訪日外国人宿泊客数の推移

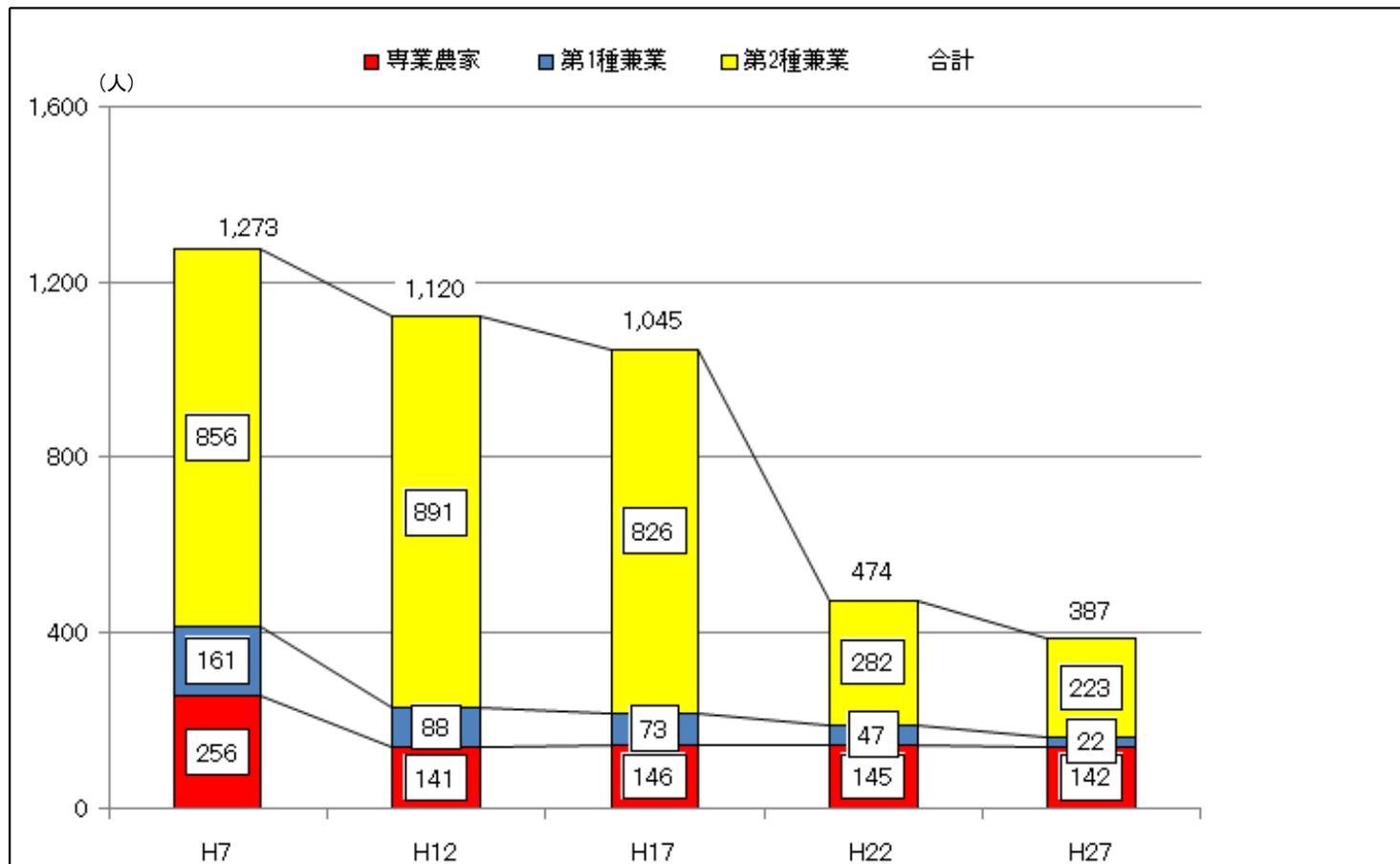
訪日外国人宿泊客数は、順調に増加している。



4 宮津市の産業

農家数の推移

農家数は大きく減少している。

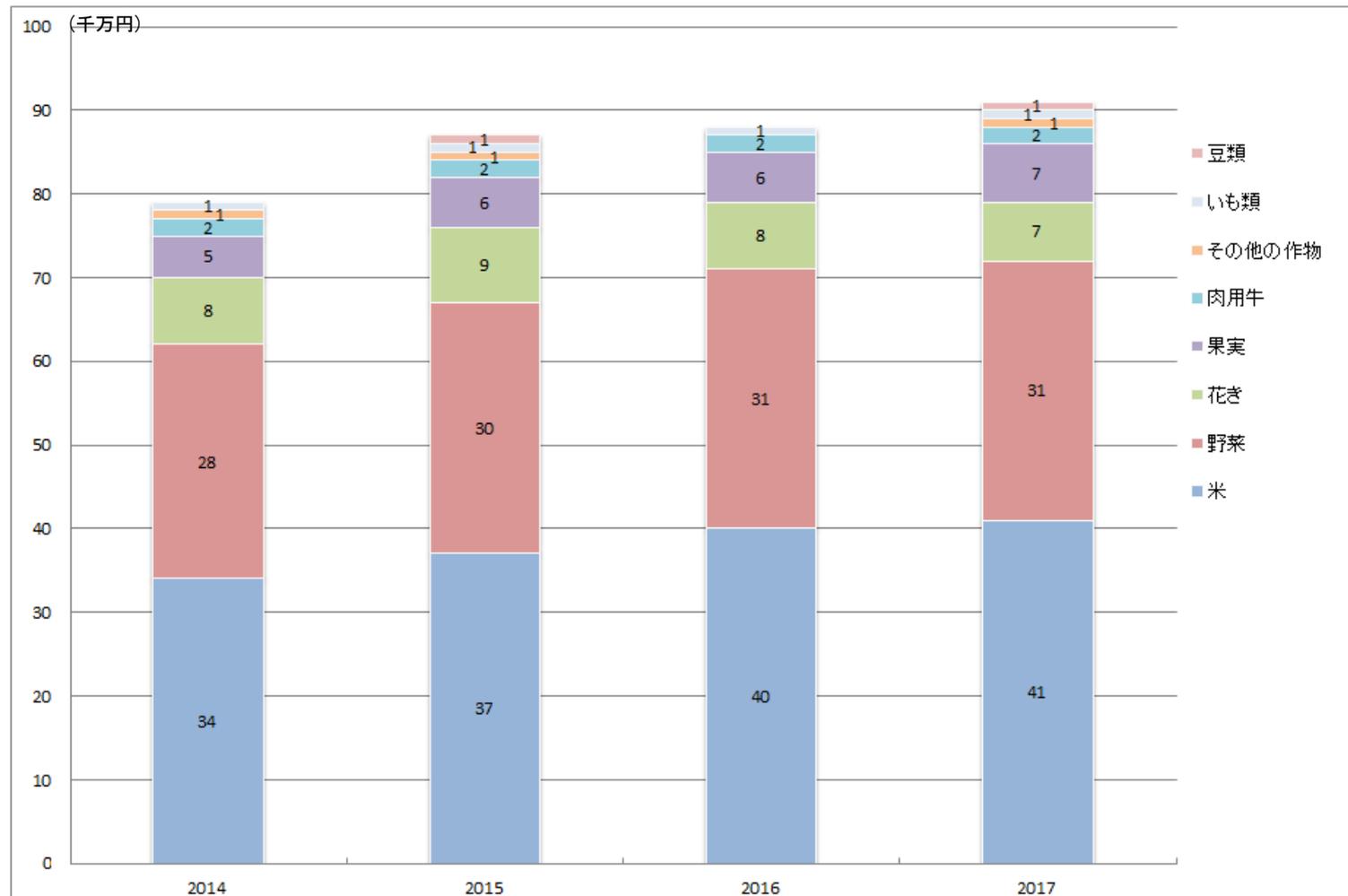


(注)H22、H27は販売農家数
出典：農林業センサス、農業センサス

4 宮津市の産業

農業産出額の推移

近年、農業産出額は増加傾向にある。
宮津市では米と野菜が産出額の8割近くを占めている。



出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

4 宮津市の産業

年齢階級別農業就業者比率と平均年齢の推移

54歳以下の農業就業者数の比率は低く、55歳以上が9割以上となっている。
平均年齢は上昇しており、直近で71歳となっている。



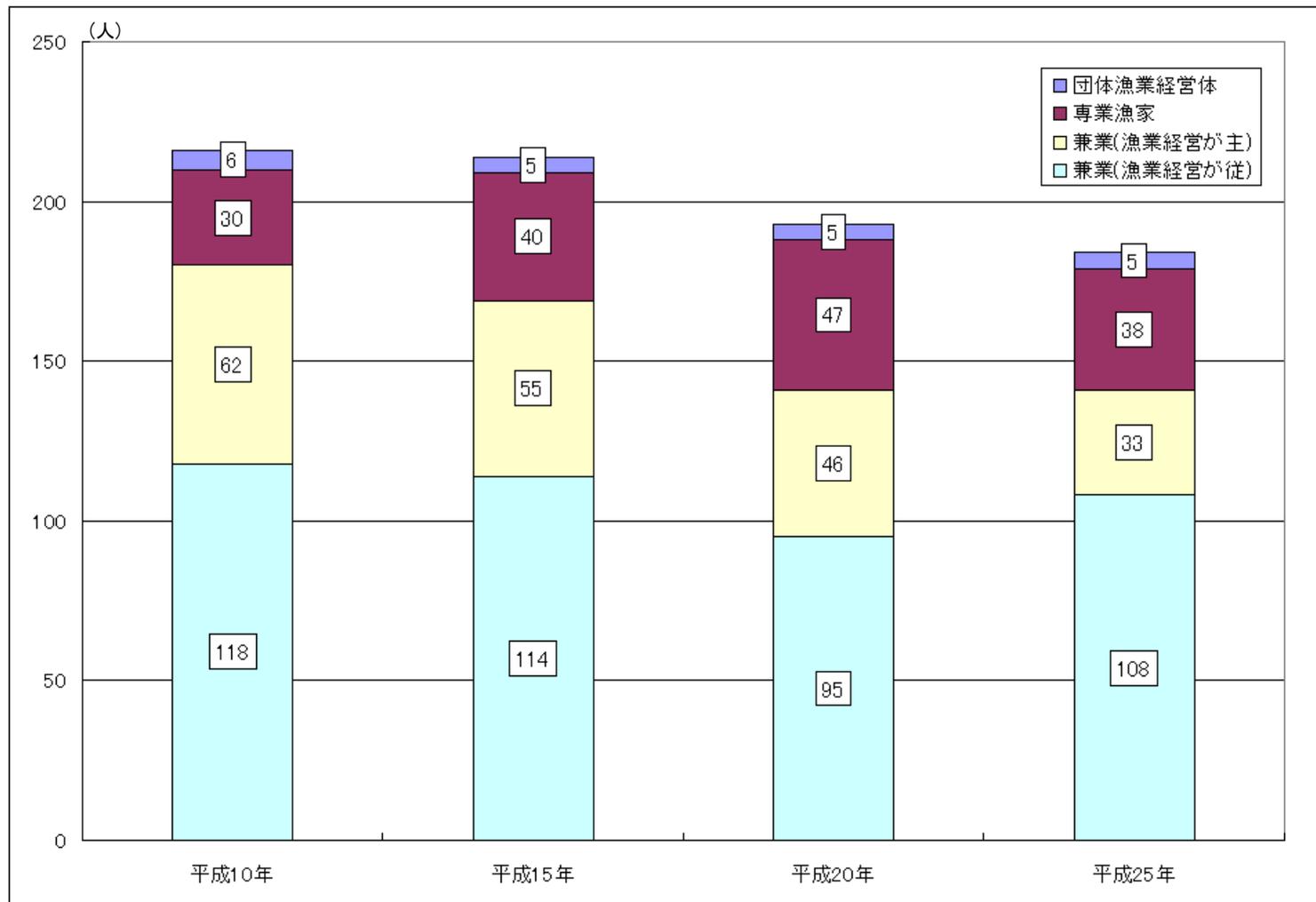
出典：農林水産省「農林業センサス」再編加工

(注)農業就業人口：農業従事者のうち、農業を主として従事した世帯員
凡例の数値は最新年の数値を指す。

4 宮津市の産業

漁業経営体数の推移

漁業経営対数は減少しているが、団体漁業経営体については、一定を保っている。
また、専業漁家については、H20年までは増加しており、H25年に減少に転じている。

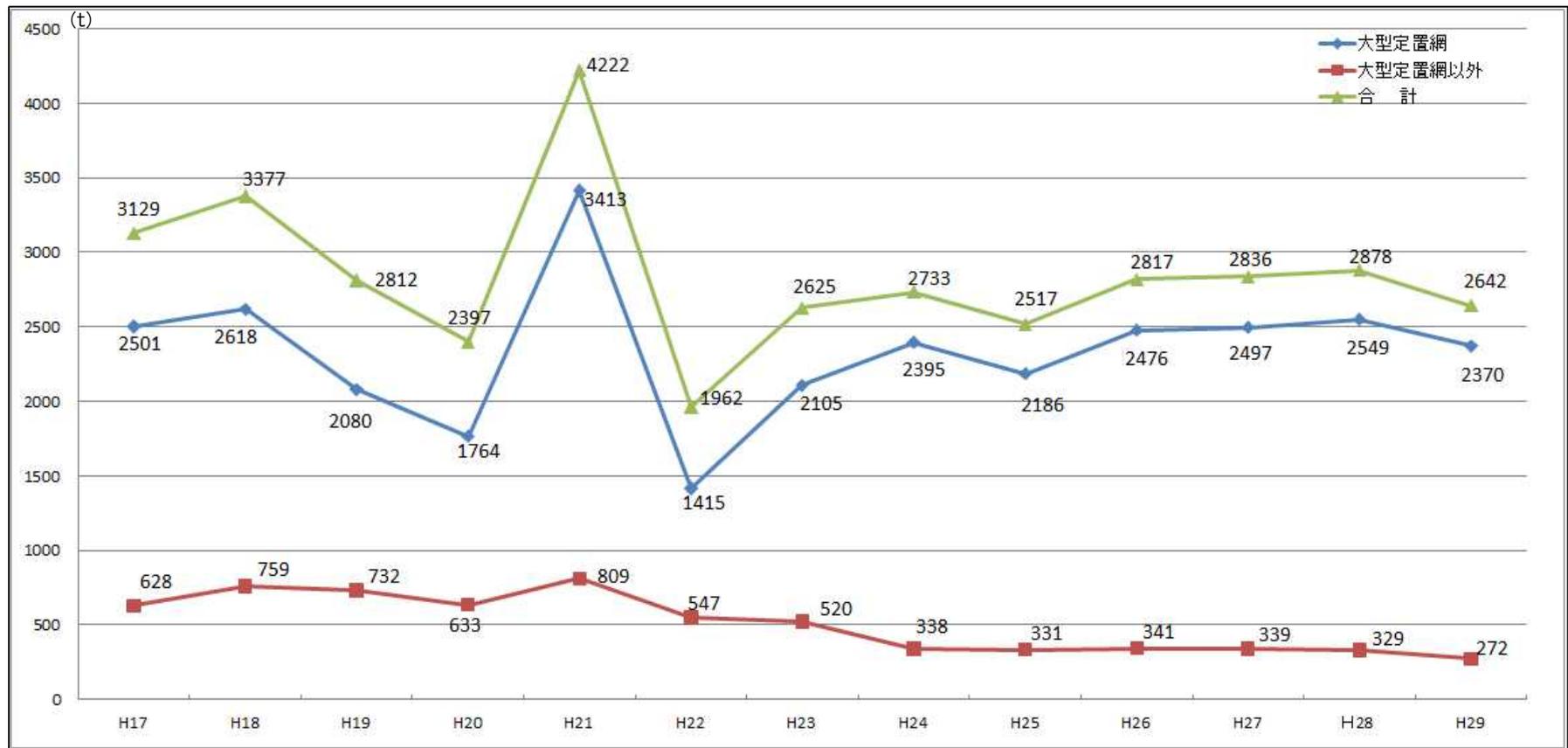


出典：漁業センサス

4 宮津市の産業

漁獲量の推移

宮津市においては、近年、大型定置網漁業が漁獲量の9割弱を占めている。

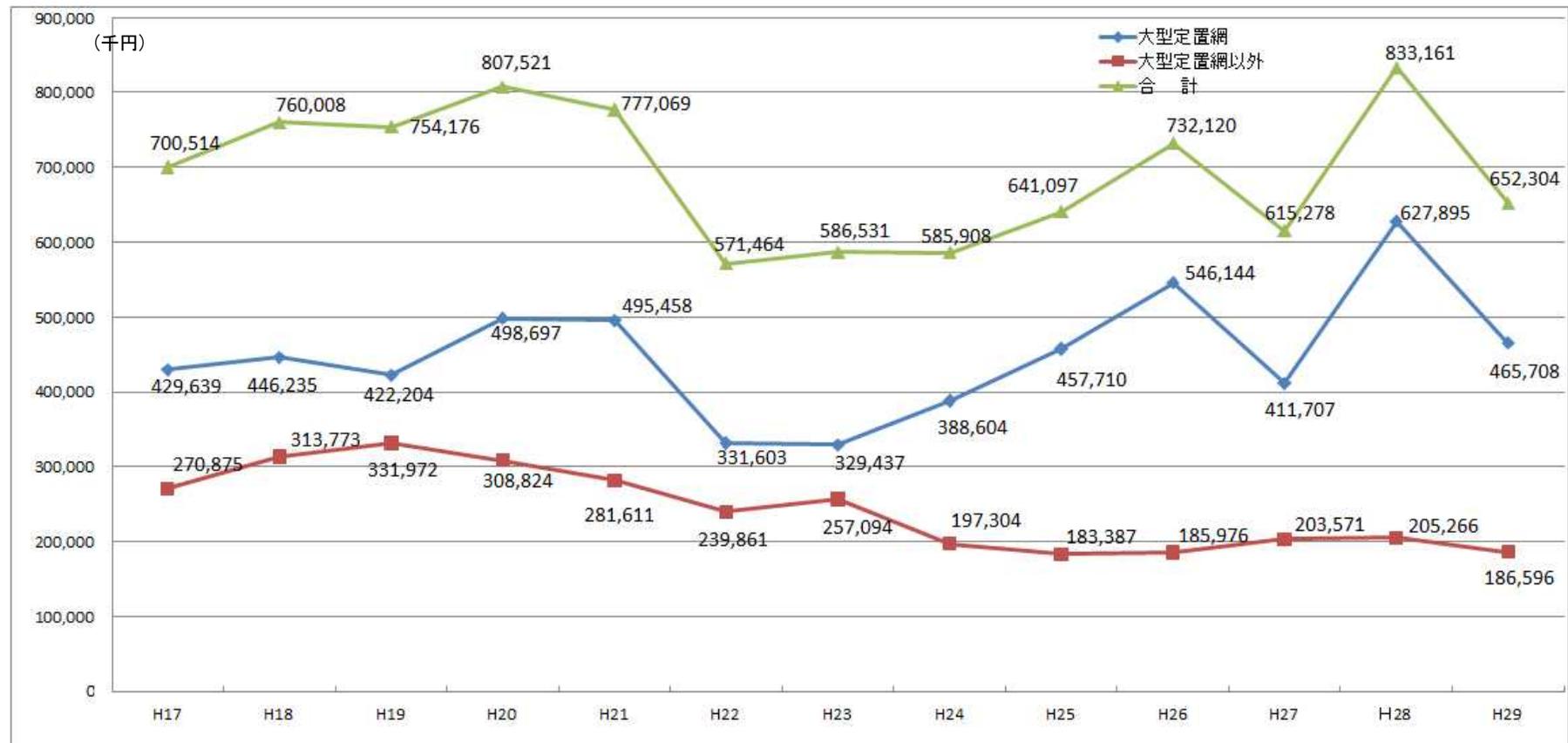


出典：京都府水産事務所「海面漁業生産高資料」

4 宮津市の産業

漁獲金額の推移

宮津市においては、近年、大型定置網漁業が漁獲金額の7割前後を占めている。

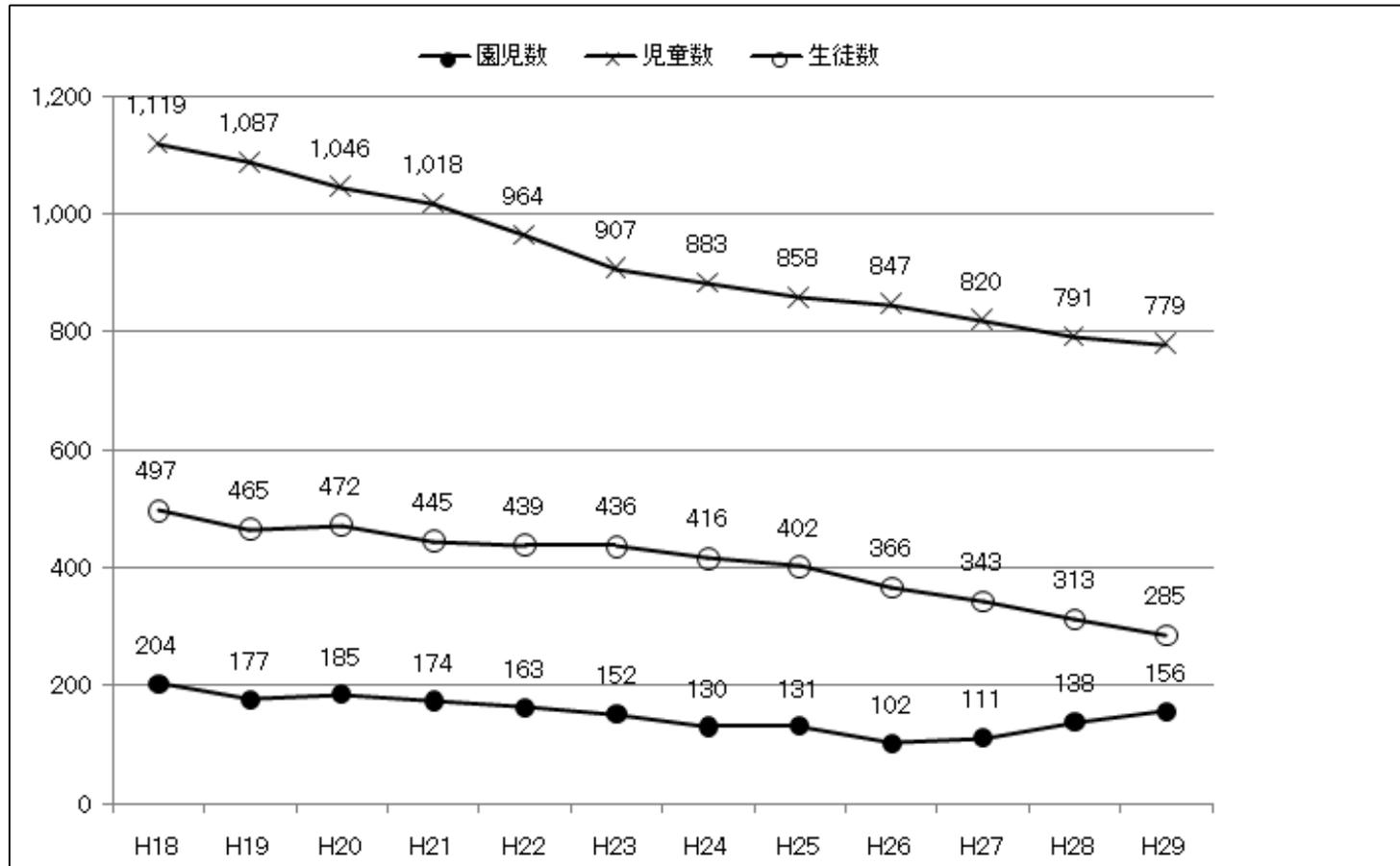


出典：京都府水産事務所「海面漁業生産高資料」

5 宮津市の福祉・教育

園児・児童・生徒数の推移

出生数の減少に伴い、児童数・生徒数は減少している。



(注)H22より園児数に幼保連携型認定こども園の園児数を含む。
幼保連携型認定こども園はH27から設置された学校種である。
出典：学校基本調査

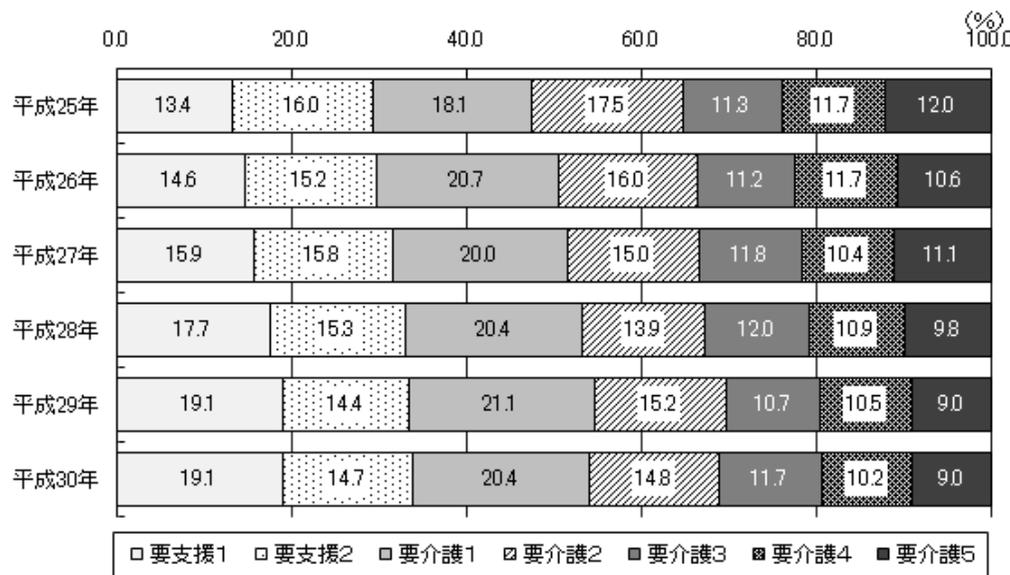
5 宮津市の福祉・教育

要支援・要介護認定者数の推移

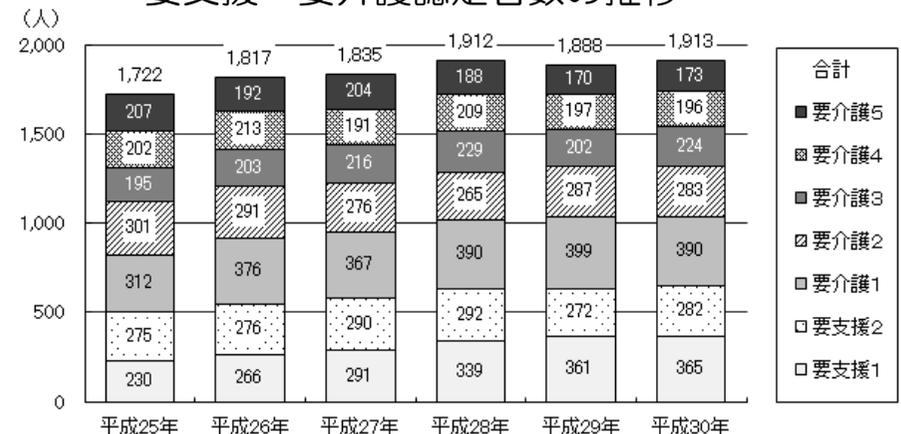
高齢化の進展により、要支援・要介護認定者数が増加している。要介護度別では、要支援1、要介護1が増加傾向となっている。

要支援・要介護度別認定者の構成比では、近年は重度（要介護3～5）の割合が減少傾向にあり、H30年では、要介護3～5の占める割合が30.9%となっており、H24年に比べ4.1ポイント減少している。また、全国・京都府と比較すると、要支援1、要介護1の認定者の割合が高くなっている。

要介護度別認定者の構成比の推移



要支援・要介護認定者数の推移



出典：介護保険事業状況報告（各年9月末）

6 宮津市の財政状況

財政の見通し(R1.12時点)

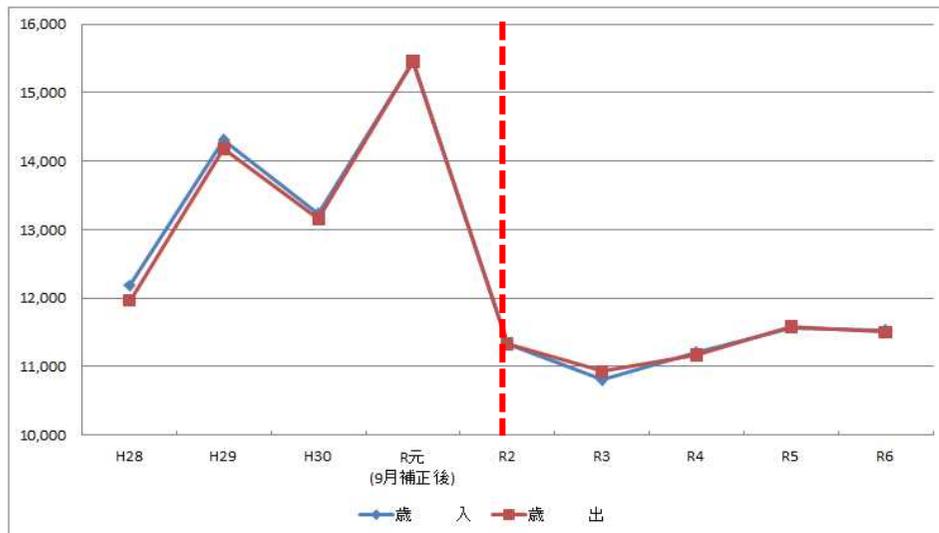
財政健全化に向けた取組等を全て実施した場合でも、R2年度以降は赤字が発生する見込みとなっている。

【収支】

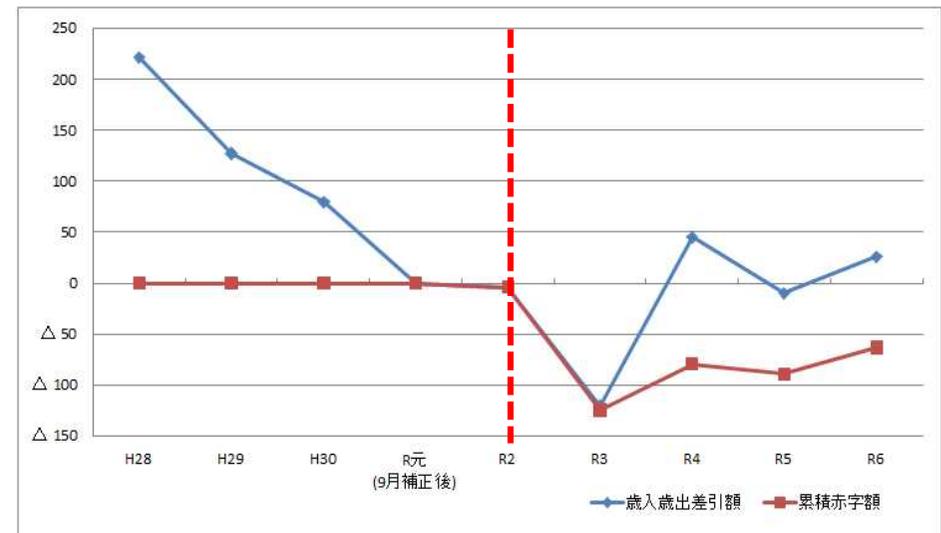
(単位:百万円)

	H28決算	H29決算	H30決算	R元 9月補正後	R2	R3	R4	R5	R6
	行財政運営指針(H28~R2)								
歳入	12,188	14,310	13,241	15,455	11,326	10,813	11,213	11,572	11,533
歳出	11,967	14,183	13,162	15,455	11,330	10,933	11,168	11,582	11,507
歳入歳出差引額	221	127	79	0	△4	△120	45	△10	26
累積赤字額	-	-	-	-	△4	△124	△79	△89	△63

歳入・歳出



差引額



6 宮津市の財政状況

財政の見通し(R1.12時点)

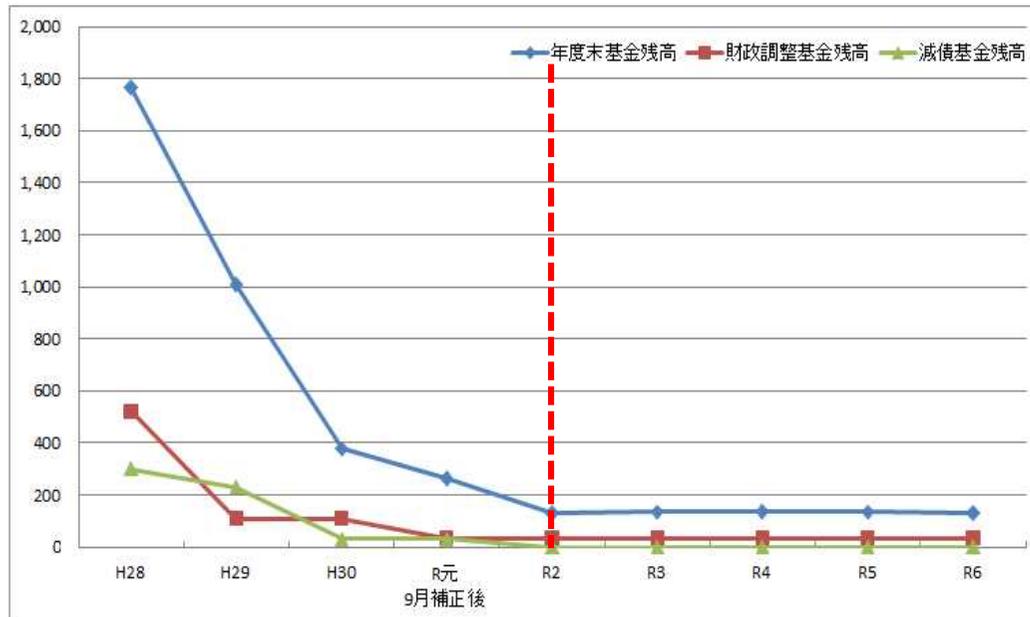
基金残高は大きく減少し、増額させることは難しい見通し。自由度の高い財政調整基金については、34百万円と非常に低い水準で推移
 地方債残高は、R2年度がピークの見通しだが、その後も高い水準で推移

【財政指標等】

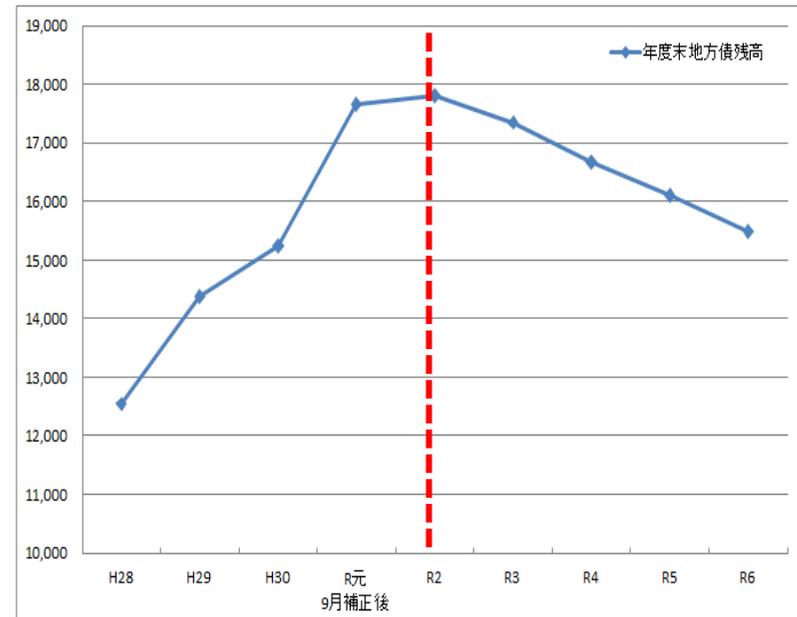
(単位:百万円、%)

	H28決算	H29決算	H30決算	R元 9月補正後	R2	R3	R4	R5	R6
年度末基金残高	1,766	1,008	377	263	130	133	136	133	130
財政調整基金残高	522	108	108	33	33	33	34	34	34
減債基金残高	299	230	30	30	0	0	0	0	0
年度末地方債残高	12,540	14,374	15,237	17,659	17,808	17,346	16,667	16,101	15,490

基金残高



地方債残高



6 宮津市の財政状況

財政の見通し(R1.12時点)

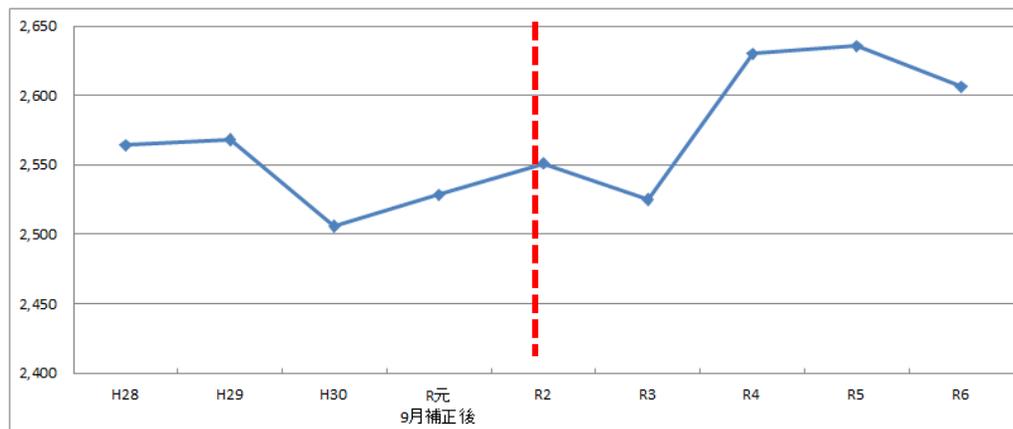
R1.12時点では、新税の導入等も考慮し市税の増収を見込んでいるが、コロナの影響によりR2年度以降は減収となる可能性が非常に高い。

【歳入】

(単位:百万円)

	H28決算	H29決算	H30決算	R元 9月補正後	R2	R3	R4	R5	R6
市 税	2,564	2,568	2,506	2,528	2,551	2,525	2,630	2,635	2,606
地方譲与税等	487	484	486	526	588	586	588	587	587
地方交付税	3,860	3,721	3,761	3,806	3,796	3,934	4,140	4,263	4,276
分担金・負担金	80	68	105	139	103	103	103	103	104
使用料及び手数料	312	304	302	305	291	291	308	306	304
国庫支出金	1,370	1,471	1,563	2,238	1,182	1,178	1,236	1,235	1,242
府 支 出 金	921	924	966	1,284	855	825	826	827	830
繰 入 金	573	889	730	266	287	151	152	159	159
地 方 債	1,445	3,242	2,261	3,694	1,344	938	947	1,179	1,135
うち臨時財政対策債	317	311	312	243	243	243	243	243	243
そ の 他	576	637	562	668	330	281	284	277	291
合 計	12,188	14,310	13,241	15,455	11,326	10,813	11,213	11,572	11,533

市税



※市税は、過去の実績等を加味するとともに施策効果等も一定加味して試算。R2から固定資産税課税対象面積の見直し+39百万円/年、R4から新税+1億円/年等を見込む。

6 宮津市の財政状況

税の推移

